

# 令和4年度 郡市医師会小児救急医療担当理事協議会

と き 令和4年7月28日(木) 15:00～

ところ 山口県医師会6階会議室(ハイブリッド開催)

[報告:常任理事 上野 雄史]

本協議会は、郡市小児救急医療担当理事、小児救急医療従事者、山口県小児科医会役員、県行政担当者、山口県医師会役員が一堂に会し、情報交換、意見交換を行うことを目的に、年1回開催されている。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況に鑑み書面開催とした。本年度は、対面、Webのハイブリッド形式により開催した。

## 会長挨拶

**加藤会長** 常日ごろから小児救急医療に対するご尽力に感謝する。本日は「#8000」も議題に上がっており、有意義な会になることを期待している。医師会は県からの委託事業を受託しており、各郡市の協力で保護者向けの啓発事業、小児科を専門としない医師を対象にプライマリケアの技能を習得する研修事業を行っている。このような普及啓発活動が、山口県における小児救急医療のさまざまな課題の解決につながることを期待する。

## 協議事項

### 1 令和3年度小児救急関係事業報告について

**県医師会** 小児救急医療啓発事業と小児救急医療地域医師研修事業は、県医師会が、県からの委託事業として取りまとめを行っており、郡市医師会で研修会等を開催していただき、実施した郡市医師会に対し開催費用を助成している。令和3年度、小児救急医療啓発事業は4医師会(徳山、山口市、防府、長門市)で4回開催され、約28万円の助成を行った(表1)。小児救急医療地域医師研修事業は5医師会(柳井、徳山、山口市、下関市、長門市)で6回開催され、約104万円の助成を行った(表2)。

### 2 令和4年度小児救急関係事業について

**県医療政策課** 県医師会と委託契約している「小児救急医療地域医師研修事業」、「小児救急医療啓発事業」、24時間365日体制で小児科の診療を確保できる病院の運営の補助「小児救急医療拠点病院運営事業」(済生会下関総合病院、総合病院

表1 令和3年度小児救急医療啓発事業 講習会開催状況

No.	開催医師会	開催年月日	開催場所	研修会・講習会名称	講師名	講師数	受講者数
1	徳山	令和3年 6月24日(木) 13:00-14:00	大河内幼稚園	すくすく健康広場 「新型コロナウイルス変異株とワクチンについて」	(医)成心会 ふじわら医院 院長 藤原 敬且	1	20
2	山口市	令和4年 3月5日(土) 14:00-16:00	野田学園幼稚園 (オンライン開催)	第15回 オンライン de 菜香亭セミナー/ 子どもたちの“からだ”と“こころ”を守る 「子どもの皮膚トラブルへの対応」 「新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)最新情報」	山口赤十字病院 皮膚科 高旗 博昭 山口赤十字病院 小児科 門屋 亮	2	43
3	防府	令和4年 3月9日(水) 14:00-15:30	防府市保健センター	小児科医師講演会 「子どもがかかりやすい病気～家庭でできる対処法～」	防府医師会小児科医会 会長 蔵重 秀樹	1	17
4	長門市	令和3年 11月2日(火) 13:30-14:30	長門市 物産観光センター	令和3年度 育児講演会 「それぞれの月齢・年齢での望ましい養育環境 (小児科医の立場から)」	長門総合病院 小児科 青木 宜治	1	25

表2 令和3年度山口県小児救急医療地域医師研修事業 講習会開催状況

No	都市医師会	開催年月日	場所	研修会名	講師名	参加者数
1	柳井	令和3年6月25日(金) 19:10-20:10	Web開催	小児救急医療地域医師研修事業研修会 「こどもの腹痛とその対応」	徳山中央病院 小児科 内田 正志	28
2	徳山	令和3年7月29日(木) 18:30-20:00	Web開催	周南地区小児救急医療地域医師研修会 「新型コロナウイルスワクチンの現状と課題 ～小児科領域を中心に～」	川崎医科大学 名誉教授/ 川崎医療福祉大学 特任教授 尾内 一信	36
		令和4年1月27日(木) 19:30-21:00	Web開催	周南地区小児救急医療地域医師研修会 「小児救急に必要な循環器の知識」	(医)ひなた 末広ひなたクリニック 小児科 森 一博	30
3	山口市	令和4年2月17日(木) 19:00-21:00	山口市医師会館 (ハイブリッド開催)	小児救急地域医師研修事業講演会/ COVID-19(オミクロン株)Update	山口県環境保健センター 所長 調 恒明  国立病院機構岩国医療センター 統括診療部長 守分 正	41
				「オミクロン株の性質と感染対策」  「オミクロン株は地域の総合力の重要性を明らかにした」		
4	下関市	令和4年2月19日(土) 18:00-19:20	シーモールパレス 下関及びWeb (ハイブリッド開催)	令和3年度小児救急医療地域医師研修会 「小児の救急対応 ～コロナ前後で変わったこと・変わらないこと～」	北九州市立八幡病院 小児総合医療センター 小児科部長 西山 和孝	71
5	長門市	令和4年3月9日(水) 19:00-20:00	長門市医師会館	小児救急医療地域医師研修会 「小児のはいれん(てんかん)と今年度経験した症例から」	長門総合病院 小児科医 青木 宜治	15
6	県医師会	令和3年12月5日(日) 13:00-14:30	ホテルニュータナカ 及びWeb (ハイブリッド開催)	学校医研修会 「新型コロナウイルス感染症とワクチン —現況と課題、そして近未来予想—」	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 子ども医療福祉学科 特任教授 尾内 一信	82
		令和3年12月5日(日) 14:40-15:40	ホテルニュータナカ 及びWeb (ハイブリッド開催)	予防接種医研修会 「コロナワクチン以外の予防接種を見合わせないようにしましょう」	下関市立市民病院 小児科 河野 祥二	

出席者

郡市担当理事

大島郡 川口 寛  
 熊毛郡 竹ノ下由昌 (Web)  
 吉南 元山 将 (Web)  
 美祢郡 竹尾 善文 (Web)  
 下関市 岩井 崇 (Web)  
 宇部市 松岡 尚  
 山口市 鮎川 浩志 (Web)  
 萩市 花宮理比等 (Web)  
 徳山 大城 研二 (Web)  
 防府 藤原 元紀 (Web)  
 下松 井上 保 (Web)  
 岩国市 岩崎 淳 (Web)  
 山陽小野田 砂川 新平  
 光市 山手 智夫 (Web)  
 柳井 志熊 徹也 (Web)  
 美祢市 横山 幸代 (Web)

周南地域休日・夜間こども急病センター

立石 浩 (Web)

山口・防府地域夜間こども急病センター

大淵 典子 (Web)

山口県小児科医会

会長 田原 卓浩  
 理事 藤原 元紀 (Web)

県健康福祉部医療政策課医療対策班

保健師 渡辺 英子

県新型コロナウイルス感染症対策室

室長 石丸 泰隆  
 主幹 國富 和美

株式会社法研ヘルスケア事業部 健康相談事業課

県医師会

会長 加藤 智栄  
 副会長 沖中 芳彦  
 常任理事 前川 恭子  
 常任理事 河村 一郎  
 常任理事 上野 雄史  
 理事 竹中 博昭

山口赤十字病院、徳山中央病院、岩国医療センター)、休日夜間の一時間帯での小児救急患者受け入れ態勢を整備する「小児救急医療確保対策事業」(周東総合病院、長門総合病院)、夜間に電話で小児救急患者への応対を行う「小児救急医療電話相談事業」(#8000)の5事業は継続する。

県医師会「小児救急医療地域医師研修事業」、「小児救急医療啓発事業」の研修会の開催は現時点(令和4年7月28日時点)では未定(柳井は既にそれぞれ研修会を1回開催済み)。

### 3 山口県小児救急医療電話相談事業(#8000)について

#### ○実績報告

**県医療政策課** 令和元年度から民間業者に一本化しており、一般競争入札の結果、昨年度に引き続き「株式会社法研」に委託している。相談件数の多い時間帯(19～22時の3時間)に限り2回線の体制。昨年度8,103件の相談件数(令和2年度7,202件)。時間帯相談件数は19時から22時の時間帯が約半数(例年と変わりなし)、曜日別相談件数では偏りなし、住所別相談件数は山口・防府、周南、下関の順に多い。相談対応者は看護師のみがほとんど。対応方法は説明・助言が6割、相談内容は、その他を除くと発熱が最多。相談対応者への感想は大半が「十分納得」との感想。昨年度、医療政策課及び法研への苦情は0件。新型コロナウイルスに関する相談件数は49件(令和2年度12件)。

**株式会社法研** 銀座と名古屋にコールセンターがあり、山口県は名古屋のコールセンターが対応。相談員は内科、小児科の病棟勤務経験のある正看護師。山口県の「#8000」を行うにあたり、休日夜間の当番医が終了した時間帯でも消防本部への案内ができるといったシンプルな対応ができるので相談員もやりやすい。医療圏内での消防本部への問い合わせを行っているが、圏境で、市を跨いでの消防本部への問い合わせを行ってよいのか迷う事例もある。

○運用評価(夜間受診される方が#8000を利用されているかどうか)

**立石先生(周南地域休日・夜間こども急病センター)**

当所には、#8000を利用してというより、直接来られる方が多い印象。#8000で勧められて22時以降の夜間救急外来に受診されるケースは多いと思う。

**大淵先生(山口・防府地域夜間こども急病センター)**

立石先生と同様で、こども急病センターには直接来られ、その後22時以降の当直帯では#8000で受診を勧められて受診するケースが多いと思う。

#### ○#8000情報収集分析事業報告

**田原 県小児科医会長** 日本小児科医会では厚生労働省の要望もあり、毎年、本事業の分析を行っている。相談対象児年齢は、全国的に1歳未満が25%、1～2歳未満が23%と2つの年齢層で約半数を占める。相談件数は、日勤帯は土日にやや多く、相談時間帯は曜日に拘わらず、19時から22時が多い。主訴は発熱が最も多く、頭部外傷、頭部以外の外傷、異物誤飲、喘鳴、啼泣・泣きやまないが多い。受診すべきと考えた診療科は小児科が2/3。救急度判定は、「119番を勧めた」が1.5%、「直ぐ受診」が29.4%。地域別にみると、事業者によって救急度判定にバラツキがあり、全国的な均一化が求められる。

### 4 その他

(1) 自宅療養中の新型コロナウイルス感染症小児患者への時間外対応について

本協議会を開催するにあたり、郡市医師会の先生から上記の議題提出があり、各郡市医師会、周南地域休日・夜間こども急病センター、山口・防府地域夜間こども急病センターにおける対応状況の情報提供を行っていただき、書面にて情報共有を行った。

**県新型コロナウイルス対策室** 1日の新規感染者数が1,600人を超えており、現時点(令和4年7月28日)で歯止めがかかってない。中でも30歳未満が半数以上を占め、若い家庭、小児へ

の感染が増えている。コロナ陽性確定の小児の症状増悪時の対応に関し、圏域によっては苦労している。開業医の先生方のご協力を賜りたい。

(2) 抗いれん剤ブコラムについて

**田原 県小児科医会長** 2020年12月からブコラム口腔溶液が発売されている。頬粘膜と歯茎の間に注入する。即効性があり、血管確保が必要ない。適切な指導を受けた保護者又はそれに代わる適切な人が、医療機関外（例：保育所で保育士、学校で教師が）使用できる。ただし、3～6か月の乳幼児の場合は、医師の指示の下で使用する。救急救命士の使用も要望しているが、まだ認められていない。

**県医師会** 令和4年7月19日厚生労働省からの事務連絡の中で、ブコラムの使用に関し、「当該児童等及びその保護者が、事前に医師から、次の点について書面で指示を受けていること。

- ・学校等においてやむを得ずブコラムを使用する必要性が認められる児童であること
- ・ブコラムの使用の際の留意事項及び、当該児童等の保護者又は教職員等は、ブコラムを使用した後、当該児童等を必ず医療機関に受診させること」等が定められている。保存については室温で立てた状態で行うことが必要。

(3) 医療的ケア児の救急搬送について

**県医師会** 医療的ケア児（NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと）は、令和元年のデータで、山口県に150名いる。医療的ケア児及びその家

族への支援に関する法律、医療的ケア児支援センターの設置が進められている。各地域で問題等あれば、県医師会に情報を上げてほしい。

(4) 報告・質疑応答

**山陽小野田 担当理事** 山陽小野田市急患診療所の小児科救急は、小児科医の高齢化や減少で維持困難となり、令和4年9月末で診療を停止する。今まで同診療所に出務していた小児科医は、10月より宇部市夜間・休日診療所に出務し、広域化した形で小児地域医療を担うこととなった。

**大島郡 担当理事** 4月に周東総合病院の小児科の常勤医がいなくなり困っている（非常勤医師2名、入院受け入れ不可、平日外来診療のみ）。柳井医療圏を支えていくのに県からのアドバイスはあるか。

**県医療政策課** 柳井地域では以前から小児、産科医療にご苦労され、課題を生じていることは承知している。当該病院で、関係者で対策を講じていると聞いている。

**田原 県小児科医会長** 小児コロナ患者が増加しており、自宅療養や夜間・休日の対応等について、具体的な考えはあるか。

**県新型コロナウイルス対策室** コロナ確定患者の在宅医療に対する電話、オンコール診療等、対応いただける医療機関が増えるよう、お力添えをいただきたい。

**多くの先生方にご加入頂いております！**

詳しい内容は、下記お問合せ先にご照会ください

**お申し込みは  
随時  
受付中です**

医師賠償責任保険
所得補償保険
団体長期障害所得補償保険
傷害保険

取扱代理店 **山福株式会社**  
TEL 083-922-2551

引受保険会社 **損害保険ジャパン株式会社**  
山口支店法人支社  
TEL 083-231-3580

損保ジャパン